

大 阪 市

「コスモスクエア地区」交通バリアフリー

基本構想

平成18年4月

- 目 次 -

1. 基本理念・基本方針	1
1-1. 地区の概要	1
1-2. 基本理念・基本方針	2
2. 重点整備地区	4
2-1. 交通バリアフリー法での考え方	4
2-2. 大阪市での考え方	4
2-3. 地区における重点整備地区	4
3. 主要な経路	5
3-1. 大阪市の経路設定の基本的な考え方	5
3-2. 地区における主要な経路等の設定	5
4. 整備の基本的な考え方と整備内容	7
4-1. 公共交通	7
4-2. 道路・交差点等	11
4-3. ソフト対策等	15
5. 継続的な改善に向けて	16
(参考) 用度の解説	17

文中()印の付けた用語は、「参考：用語の解説」に示す。

参考資料1. コスモスクエア地区交通バリアフリー基本構想策定の検討体制	1
参考資料2. コスモスクエア地区交通バリアフリー基本構想の検討経緯	1
参考資料3. 市民(高齢者・障害者等)からの意見の聴取(わがまちウォッチングの実施)	2
参考資料4. 主要な経路の路線名一覧	6
参考資料5. コスモスクエア地区基本構想検討会議における主な意見とその対応	7
参考資料6. 平成17年度大阪市(4地区)交通バリアフリー基本構想素案に係る、パブリックコメント結果一覧表	12

1. 基本理念・基本方針

1-1. 地区の概要

コスモスクエア地区は、大阪市の西南部に位置している。

コスモスクエア駅では、地下鉄中央線と南港ポートタウン線が結節しており、1日当たりの平均利用者数は約11千(人/日)である。



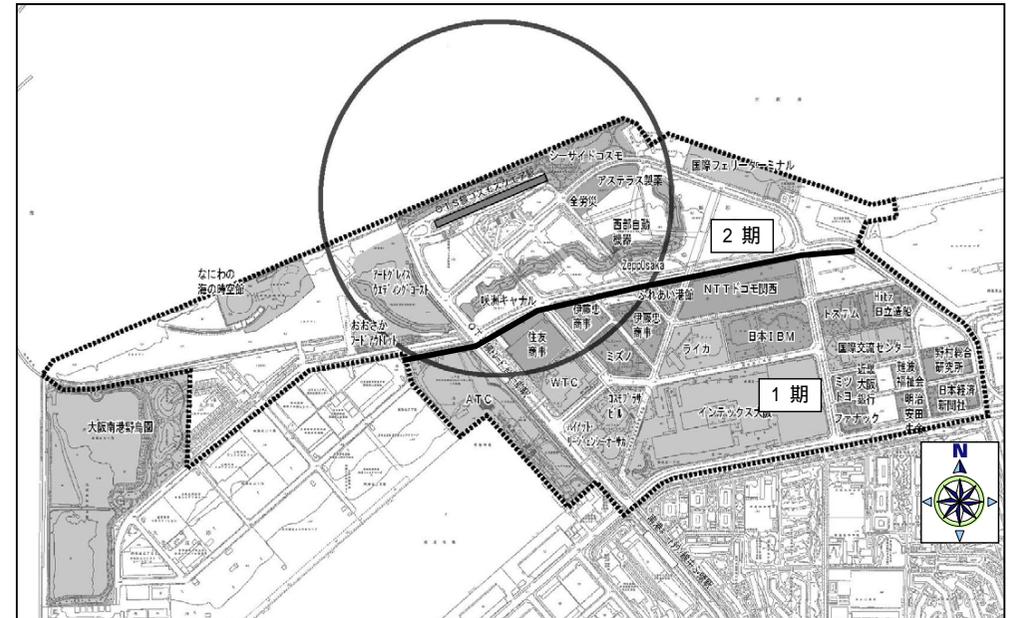
図 1.1 コスモスクエア地区の位置

表 1.1 鉄道駅の1日当たりの平均利用者数(平成17年3月末現在)

駅名	利用者数(千人/日)
コスモスクエア駅	11

基本構想対象駅及びその周辺の現況

咲洲コスモスクエア地区では、本市の都市再生を先導する地区となるよう、高度な都市機能の集積と臨海部の特性を活かした都市空間の形成を進めている。本地区には、ワールドトレードセンター(WTC)、アジア太平洋トレードセンター(ATC)、国際見本市場(インテックス大阪)、なにわの海の時空館など多くの集客施設が立地しているほか、鉄道料金の一元化によるアクセス向上により、さらに多くの人々が来訪することから、地区の回遊性や歩行者環境のさらなる充実が必要である。



1 - 2 . 基本理念・基本方針

(1) 基本理念

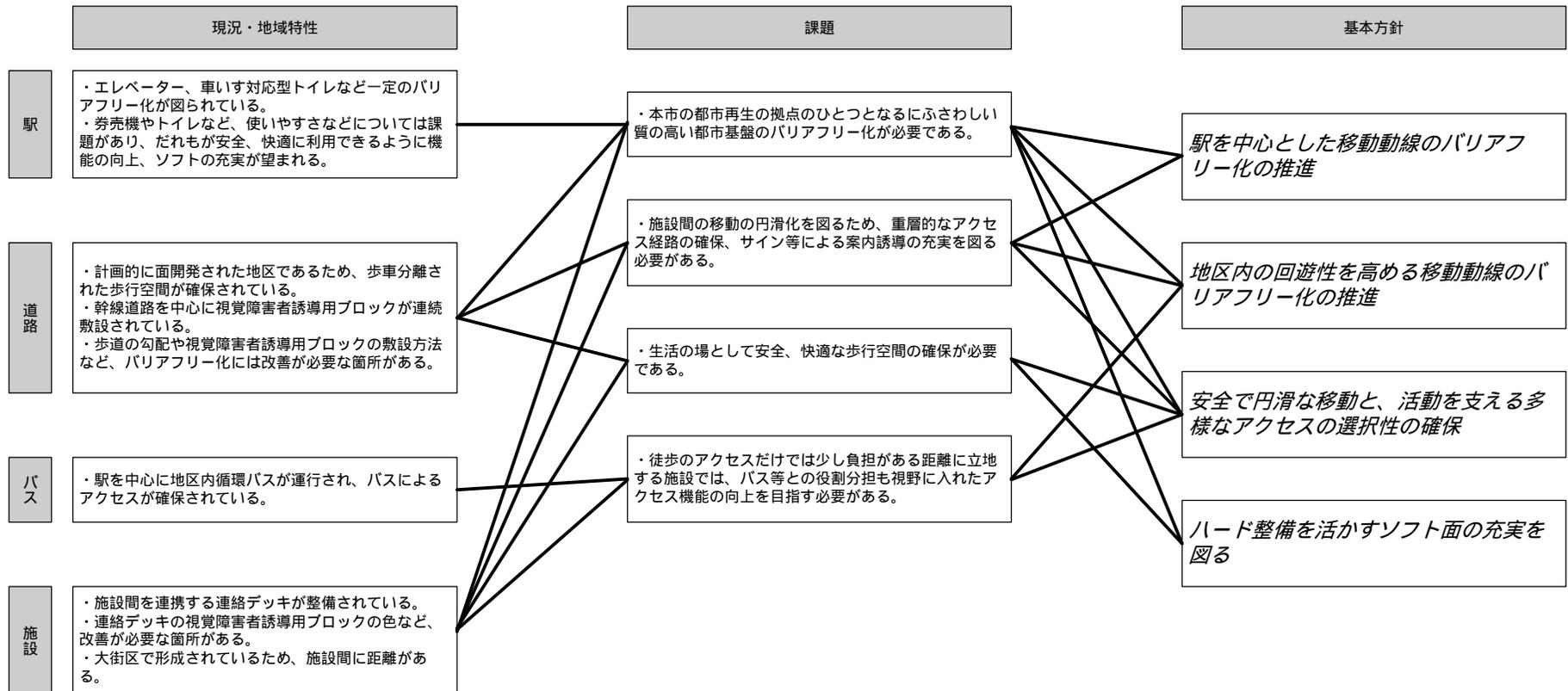
ひとにやさしい移動空間、人が集まり交流・活動できる未来都市を目指して

コスモスクエア地区は、計画的に面開発された地区であるため、歩道、施設間を連携する連絡デッキが整備されている。また、コスモスクエア駅は、エレベーター、車いす対応トイレなど一定のバリアフリー化が行われている。

コスモスクエア駅周辺は未開発の街区があり、今後、開発が促進されるエリアであるため、開発の進捗にあわせて、効率的にバリアフリー化を進める必要がある。

(2) 基本方針

1) 地区の交通バリアフリーの課題



2) 咲洲コスモスクエア地区の開発コンセプト



センターコアゾーン ～魅力ある市街地の形成～	研究開発活動をサポートする居住・生活利便機能等の誘導とともに、業務・商業機能を導入し、咲洲コスモスクエア地区の核となるエリアの形成を目指します。
新産業創出ゾーン ～産学連携を可能とする研究開発拠点の形成～	研究開発型企業の立地促進を図り、新産業創出につながる研究開発拠点の形成を目指します。
国際交易ゾーン ～国際交易機能の強化～	WTC、ATC、インテックス大阪、ホテル、国際会議場といった国際交易施設の集積を活かした、国際交易関連企業の集積を図ります。
賑わい創出ゾーン ～賑わい空間とアメニティ豊かな都市景観の創出～	咲洲チャンネルと商業・文化施設を同一レベルに整備し、咲洲チャンネルでは舟を利用したイベントを開催し、水辺の賑わい空間を創出します

咲洲チャンネル・・・「なにわの海の時空館」付近から地区中央部を東西に貫き、国際フェリーターミナル北側に至る全長約1.3kmの運河。運河に沿ってプロムナード（遊歩道）が整備されている。

3) 基本方針

以上の問題・課題を踏まえて、コスモスクエア地区の基本方針は、以下のとおりとした。

1. 駅を中心とした移動動線のバリアフリー化の推進

- ・使いやすい駅施設。
- ・利用しやすい歩道空間。
- ・土地利用の進捗にあわせて適切なバリアフリー化を進める。

2. 地区内の回遊性を高める移動動線のバリアフリー化の推進

- ・コスモスクエア地区全体の移動円滑化。
- ・施設間移動動線のバリアフリー化。
- ・案内・誘導機能の充実。

3. 安全で円滑な移動と、活動を支える多様なアクセスの選択性の確保

- ・連絡デッキのバリアフリー化。
- ・バスアクセスとの連携。
- ・防犯、安全対策。

4. ハード整備を活かしたソフト面の充実

- ・様々な人の立場から、バリアフリーの必要性を理解し、バリアフリーに対する意識や交通マナーの向上を図る。

2 . 重点整備地区

コスモスクエア地区における重点整備地区を以下のような考え方に基づいて設定する。

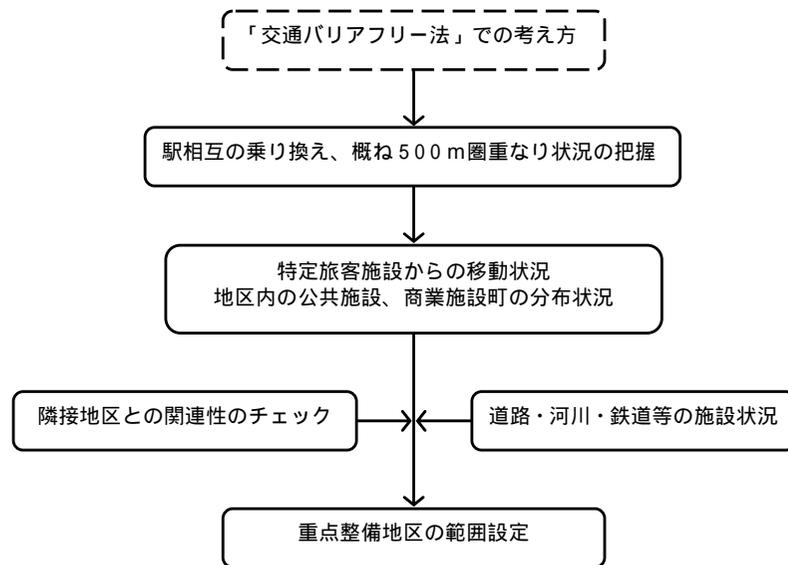
2 - 1 . 交通バリアフリー 法での考え方

「交通バリアフリー 法」では重点整備地区の範囲設定に関して次のような方針を示している。

徒歩圏として一体的に整備すべき重点整備地区は、特定旅客施設から概ね500m～1km以内とする。但し、具体的な区域設定は、高齢者・身体障害者等の特定旅客施設からの移動の状況、施設の分布状況を踏まえて判断することが必要である。また、区域は、できる限り町境・字境、道路、河川、鉄道等の施設、都市計画道路等によって、明確に表示して定めることが必要である。

2 - 2 . 大阪市での考え方

大阪市では、複数の駅が集中していることから、駅相互の乗り換え状況及び各駅から概ね500m圏の重なり状況、また、駅周辺の公共施設及び商業施設がどのように分布しているかを考えながら、道路・河川・鉄道などで区域を設定していく。



2 - 3 . 地区における重点整備地区

コスモスクエア地区の重点整備地区は、以下の考え方に基づき、コスモスクエア駅を中心とした面積約173haの区域とする。

駅500m圏を中心に地区のまとまりを考慮した範囲

駅から500m圏を中心に、幹線道路の位置を考慮して重点整備地区を位置づける。

コスモスクエア開発地区のまとまりを考慮した範囲

コスモスクエアの開発地区の位置を考慮した範囲。

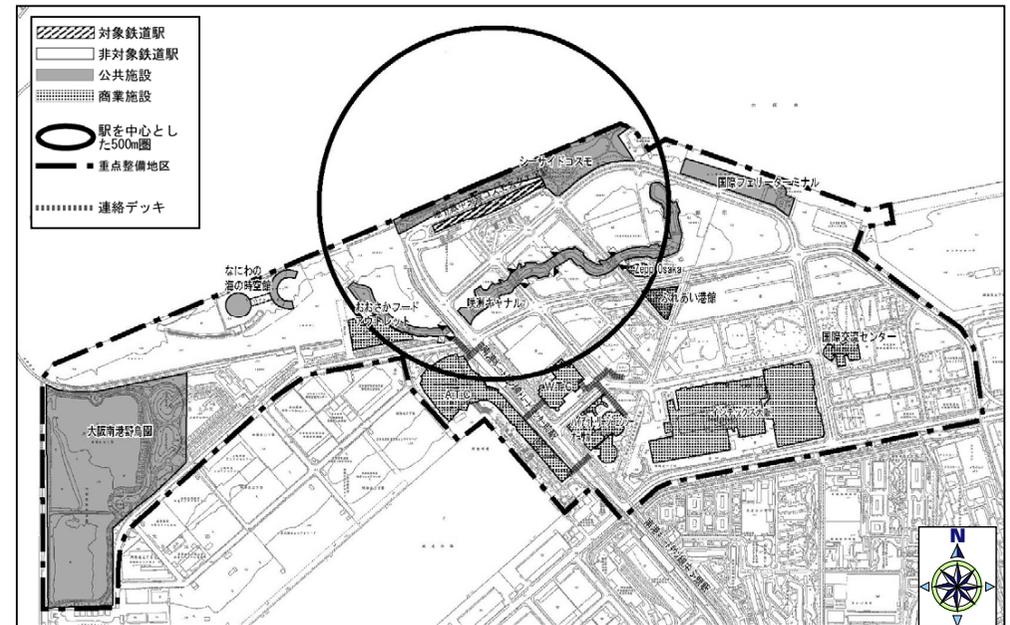


図2.1 重点整備地区

3 . 主要な経路

3 - 1 . 大阪市の経路設定の基本的な考え方

駅を中心とした地区内の道路をバリアフリー 化していくために、当該地区内の主要施設までの経路を中心として考えていく必要がある。その考え方を以下に示す。

経路設定については、市域全体として次の様な考え方にに基づき設定する。

(1)主要な経路

主要な経路は、だれもが安全・快適に移動できることを考慮して選定する。また、経路については、以下の考え方により設定する。

駅から周辺の主要な施設（主要官公庁施設、福祉施設、大規模病院、集客施設、大規模商業施設、商店街など）の入口までの経路

商業・業務施設、文化施設、公園などが面的・線的に広がる地区における、施設間の回遊を考慮した経路

既決定の重点整備地区内の主要な経路との連続した経路

すでに決定されている重点整備地区内の主要な経路に当たる道路が連続している場合、その経路について主要な経路として設定する。

(2)鉄道駅乗り換え経路

複数の鉄道駅間の乗り換えにおいて、鉄道施設内で乗り換え経路が確保されていない場合、道路、地下街、鉄道施設内自由通路等を「鉄道駅乗り換え経路」として設定する。

3 - 2 . 地区における主要な経路の設定

市域全体の考え方に沿って、当地区では左記 3 -1 (1) に基づき、主要な経路を設定する。

(1)主要な経路

表 主要な経路

路線名	選定理由
コスモ1号線 コスモ2号線 コスモ3号線 コスモ中央線 コスモ南線(西) はばたき通り線 コスモ国際フェリー線 南港緑道 連絡デッキ(ATC~WTC間)×WTC~ミズノ間)×WTC~ハイアットリ ージェンシーオーサカ間×ATC~南 港緑道〔ハイアットリージェンシー オーサカ側〕間×ATC~南港緑道〔住 友商事側〕間(ATC~南港緑道〔お おさかフードアウトレット側〕間) (コスモスクエア駅~コスモ国際フ ェリー線を横断)	コスモスクエア駅から「シーサイドコスモ」「咲洲キャ ナル」「おおさかフードアウトレット」「Zepp0 saka」「ふ れあい港館」「インテックス大阪」「ハイアットリージェ ンシーオ - サカ」「アジア太平洋トレードセンター(AT C)」「ワールドトレードセンター(WTC)」を回遊する 経路
コスモスクエア海浜緑地内通路	コスモスクエア駅から「なにわの海の時空館」「シーサ イドコスモ」を結ぶ経路

